

西表島水域漁場開発計画調査 (ノコギリガザミ増殖場造成実験調査)

大城信弘・渡辺利明・友利昭之助・須見直彦*

本調査の詳細は昭和57年度、沖縄特定開発事業推進調査（昭和58年3月）において報告したのでここでは要約を記す。

- マングローブ地帯におけるノコギリガザミ増殖場造成の基礎資料を得るのを目的とし、西表島において、ノコギリガザミの生態調査、漁場実地調査及び場内での飼育試験を実施した。
- 西表島でのノコギリガザミは二型が認められ、それぞれ別種の可能性が高い。これらは既述の文献では *Scylla serrata* , *S. oceanica* に相当した。
- 両種共、干潟部よりは河川状部などの冠水部に多く分布するが、*S. serrata* はより内陸部の、底質的には泥の多い場所に分布するのに対し、*S. oceanica* はより広く分布し、干潟前縁の海上部でも生息が確認された。
- 確認された範囲では、ほとんどは *S. oceanica* で *S. serrata* はわずかであった。
- 移動について見ると短期的にはあまり移動しない傾向にあった。
- 消化管内容物では巻貝、二枚貝などの貝類が多く、ついでカニ、エビ等の甲殻類や多毛類など底性動物が主であったが、他に魚類や植物も認められた。
- 飼育実験より、最初の一年間の生長を推定すると、甲幅で9～13cmと推測された。
- 西表島では主にカニカゴで漁獲され、他にフック、刺網等が用いられる。
- 甲幅10cm～19cmにかけて漁獲され、15cm前後にモードがあり、漁獲物の甲幅組成から推定すると、漁獲は2年群を主とし、早いものでは一年以内、大型個体では3～4年ものと推定される。

* 非常勤職員